

「患者と家族の研究基金」実績報告会

Cancer Research Funds for Patients and Family

プログラム抄録集

日 時 平成 22 年 5 月 20 日
午後 6 時 30 分 (総会終了後)
場 所 ペリエホール 5F 「椿」

主催 NPO 法人 医療・福祉ネットワーク千葉

◇ 開会の辞 崎山 樹 (理事長)

◇ 司会進行 中川原 章 (理事)

◇ 成果発表

1部 座長 木村 秀樹(千葉県がんセンター 副センター長)

1 『患者体内の標的臓器の呼吸性移動を考慮に入れた放射線治療手技の開発』
千葉県がんセンター 放射線治療部 小島 徹

2 千葉県がんセンターがんの分子疫学コホート調査研究
—— オーダーメイド型の予防・医療を目指して
千葉県がんセンター がん予防センター 李 元元

3 遺伝子診断を用いた術後乏突起神経膠腫に対する化学療法先行療法の有用性の検討
千葉県がんセンター 脳神経外科 堺田 司

4 骨肉腫における biomarker としての microRNA 発現解析
——採血で薬の効き具合が分かるか？
千葉県がんセンター 整形外科 岩田 慎太郎

2部 座長 高野 英行 (千葉県がんセンター 画像診断部 部長)

5 小冊子「高校生からの健康生活ノート」
ねむの会 代表 金井 弘子

6 自己成長カウンセリング講座
アイビー千葉 斉藤 とし子

7 拠点病院の相談窓口と患者会の協働へむけて
支えあう会α 五十嵐 昭子

◇ 閉会の辞 木村 正人 (事務局長)

1 『患者体内の標的臓器の呼吸性移動を考慮に入れた放射線治療手技の開発』
千葉県がんセンター 放射線治療部 小島 徹

現在、当センターでの放射線治療手技は、標的となる臓器の呼吸性移動が治療精度に与える影響を考慮していないため、治療成績向上の妨げの一因となっている。そこで我々は、呼吸性移動を再現できる精度検証用の機器を作成し、その問題点を明らかにした。結果より、呼吸同期照射と補償フィルタを用いた強度変調放射線治療法を提案し、その精度検証を行うことにより、良好な精度を担保し、かつ患者に優しい放射線治療手技を確立した

2 千葉県がんセンターがんの分子疫学コホート調査研究
—— オーダーメイド型の予防・医療を目指して
千葉県がんセンター がん予防センター 李 元元

千葉県の地域特性を踏まえ、一人ひとりの体質や生活習慣に応じたオーダーメイド型の予防・医療を実現するため、千葉県がんセンターは、最終的に5万人以上を30年にわたって追跡調査する「千葉県がんセンターがんの分子疫学コホート調査研究」を計画している。平成20年度から、市原市において、遺伝子調査や体質と疾病の関係について県民の認識や意識を把握することを目的とした先行調査を実施した。協力者は遺伝子調査に関して関心が高く、一部否定的なイメージを持った方も遺伝子型解析結果返却後にこの調査を容認する方向へ変わった。これらの結果から、自身の体質を知ることが健康作りの動機付けになる可能性が示された。

3 遺伝子診断を用いた術後乏突起神経膠腫に対する化学療法先行療法の有用性の検討

千葉県がんセンター 脳神経外科 塚田 司

乏突起細胞系腫瘍は1pLOHの有無で化学療法の効果に差がある。2001年より1pLOHの有無により治療法を分け、術後の後療法として化療を先行群とそれ以外の群とに分け、治療成績を検討した。結果は乏突起神経膠腫瘍、退形成性乏突起膠腫ともに無再発生存期間は以前に比べ短くなる傾向がみられたが、生存期間には差は認めなかった。早期に再発を発見・治療を開始することで、再発時におけるADLを下げないことが出来た。

4 骨肉腫における biomarker としての microRNA 発現解析

—採血で薬の効き具合が分かるか？

千葉県がんセンター 整形外科 岩田 慎太郎

骨肉腫は小児悪性骨腫瘍で最多のものであり、その5年生存率は近年80%に迫るものである。その反面、抗癌剤抵抗性の患者群の5年生存率は50%以下に留まり、この群に対しては抗癌剤の変更により予後の改善が期待される。しかし現在のところ骨肉腫における腫瘍マーカーは存在しない。われわれは患者血清中のmicroRNAの発現解析を行い、正常人との比較によって骨肉腫患者に特徴的なmicroRNAプロファイルを発見した。これらの中に骨肉腫の有力なbiomarkerが存在すると考える。

5 小冊子「高校生からの健康生活ノート」

ねむの会 代表 金井 弘子

ねむの会が2006年より開催してきた高校生への「健康セミナー出前講演」は少しずつ活動の輪を広げています。このセミナー開催当初より高校生向けのがん啓発冊子が無く作成の必要性を感じておりました。今回、助成金をいただき乳がんの啓発だけでなく社会へ出る前に必要なタバコのコントロールや子宮頸がんの啓発など若い時から知識として持ってもらいたいことを盛り込んだ小冊子を作成することができました。

6 自己成長カウンセリング講座

アイビー千葉 斉藤 とし子
(旧あけぼの千葉)

がん対策推進計画が施行されて以来、各都道府県でピアサポーターによる患者サポートが実施されるようになり、千葉県でもピアサポーター養成研修が実施されました。あけぼの千葉が2003年4月以来継続してきた、ピアカウンセラー養成事業に、専門家の指導の必要性を強く感じ、自己成長カウンセリング講座を企画しました。12回の講座を終了いたしましたので、アンケート回答による受講者の意見を報告いたします

7 拠点病院の相談窓口と患者会の協働へむけて 未提出

支えあう会α 五十嵐 昭子

平成19年施工された「がん対策基本法」に基づく平成20年策定の「千葉県がん対策推進計画」では「相談支援センターの充実」があげられている。そこに患者会としてどのような協働関係が作れるか模索した。09年9月21日の「全国がんサロン交流会 in 島根」への参加と、10年2月～3月に県内の拠点病院と国立がんセンター東病院を訪問調査したので、そこで得たことを報告する。